

1、不妊に関する問題について

昨年度、不妊治療への助成の利用が少なく、本年度、減額となった。

現状で、対外受精で生まれた子どもは24人に一人ということである。又、6カップルに1カップルが不妊に悩んでいるという。

不妊で悩んでいることが人前ではタブーになっている現実がある。

物理的な子育て支援のほか、生物学的な支援も必要になっている。

(1) 以下の問題についてどのように取り組むか聞く

ア、事業者

イ、医療機関

ウ、嵐山町及び埼玉県

エ、家族

(2) 子育て支援センターは、母子手帳から支援がはじまるが、母子手帳以前のカップルに対しての支援をどのように構築するか。

2、幼保無償化の対応について

幼保無償化が本年10月より実施になる。

(1) 準備の進捗をきく

(2) 嵐山町民間保育園での保育士の確保についてきく

(3) 町立幼稚園は、3年保育が実施されていない。今後について聞く

3、交通まちづくりの視点と通学通園および歩行者の安全について

現在、高齢者・障がいのある人、妊産婦に対しての、タクシー券補助はあるが、具体的に地域交通計画はない。又、大型バスの乗り入れを含めた駅西整備計画はある。

(1) 交通まちづくりの視点をもった嵐山町総合振興計画の見直しが必要だが、考え方を聞く

(2) 学校統合の諮問では菅谷小中の敷地とすること、スクールバス(一般バスの活用)とある。現状においても、スクールバスは必要な子どももいる。

どのように対応するか

学校区で遠距離を一人で登下校せざるおえない子どもに対し、越境措置は必要だが考え方を聞く

(3) 嵐山町の移送サービス事業者の撤退より、障がい・高齢者の移動に係る事業は緊急的な対応が行われた。

今後についての考え方を聞く

(4) 地域公共交通会議を嵐山町及び周囲自治体と組み、設置すべきであるが考え方を聞く。

(5) 歩道への自動車の乗あげによる死傷事故がおきている。危険な交差点はガードレール設置の考え方は。

4、埼玉中部資源循環組合について

(1) 進捗を聞く

(2) 事業者選定会議が開催されたが、傍聴はできない状況であった。事業者選定委員の人選を聞く。

(3) 会議非公開であっても、会議録は公開が通常だが、公開・非公開を聞く

(4) 焼却ゴミは、各市町・小川地区衛生組合で異なっているが統一されたか。

(5) 大型廃プラスチックは焼却予定だが、

ダイオキシンだけでなく、微細な環境ホルモンによる汚染もある。因果関係の実証が難しいため焼却されるが、地元への影響と責任を聞く

(5) 中国のプラスチック輸入禁止措置を受け、環境省は緊急避難的に産廃プラスチックの焼却を求めているが、方向は。

5、財政の見通しについて

町長の施政方針および広域組合などにより

支出予定額が大きい。ソフト面で必要な事業は、財政が厳しいという釈明で実施しない方向が続いている。広域組合、駅西計画、特別会計、学校統合、県企業局の工業団地造成、川島地区への工業団地造成、観光事業、水道事業等も含め、今後5年間の財政計画をきく。